

## 1

## Y K K A P 株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達から廃棄にわたる全ての領域で環境負荷を低減するためには、サプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量の把握が重要であり、より効果的な対策が可能である。</li> <li>● お客様からの情報開示の要求に対応するとともに、ステークホルダーに当社の環境負荷低減の取り組みを理解していただくことが可能である。</li> </ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 削減機会のより大きなカテゴリの環境負荷低減に取り組む。</li> <li>● 算定結果を社会環境報告書で公表し、お客様からの情報開示要求に応える。</li> <li>● 断熱性能の高い窓の使用による環境負荷低減効果（削減貢献量）をお客様にアピールする。</li> </ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量が明確になり、効果的な対策が可能である。</li> <li>● CO<sub>2</sub>排出量の透明性が高まり、お客様の情報開示要求にも対応可能である。</li> </ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達、物流、経理部門からデータを収集し、環境部門で算定する。</li> <li>● エネルギー使用量・廃棄物処理量は社内データベースを活用して算定する。</li> </ul>
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原材料調達がサプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量の約7割を占めるため、排出量が少ない原材料への変更を積極的に推進する。</li> <li>● グリーン調達、廃棄物の排出量削減に取り組む。</li> <li>● 物流では、適切な配車と積載率の向上ならびにモーダルシフトに取り組む。</li> </ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原単位、排出量の精度向上。</li> <li>● 海外の活動量、原単位データの整備及び効率的算定。</li> </ul>

# 2

# YKK AP 株式会社

各社の考え方	
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主要商品である窓自体は使用時にエネルギーを消費しないが、窓から逃げる熱損失は大きい（図1参照）、断熱性の高い樹脂窓を提供することにより、建屋全体の空調エネルギーおよびCO<sub>2</sub>排出量の削減が期待できる。</li> <li>● 2017年度のYKK AP（国内）のサプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量（Scope1・Scope2含む）よりも、販売した窓のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果（CO<sub>2</sub>削減貢献量）が上回っている（図2参照）。</li> <li>● 家庭やオフィスのネットエネルギーゼロに向けて、省エネ機能を高め、ライフサイクル全体に配慮した商品を開発することにより、健康で快適な住環境づくりへの貢献を目指す。</li> </ul>

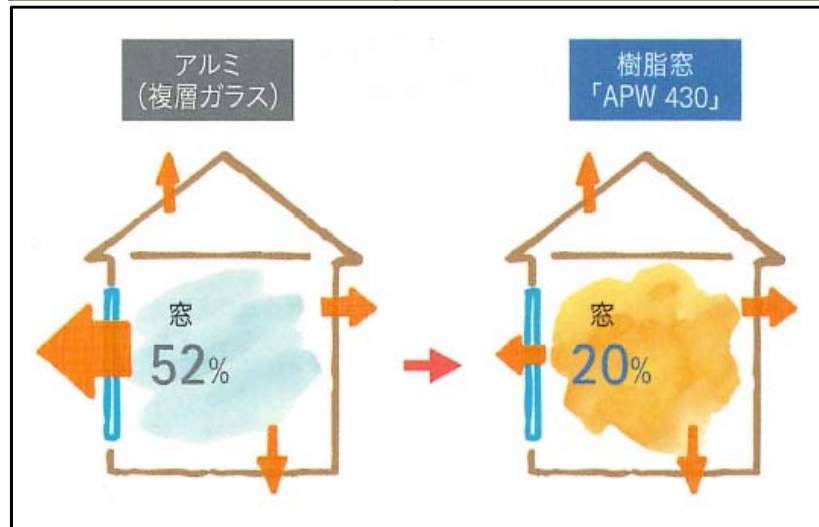


図1: 窓から逃げる熱損失割合比較(冬)

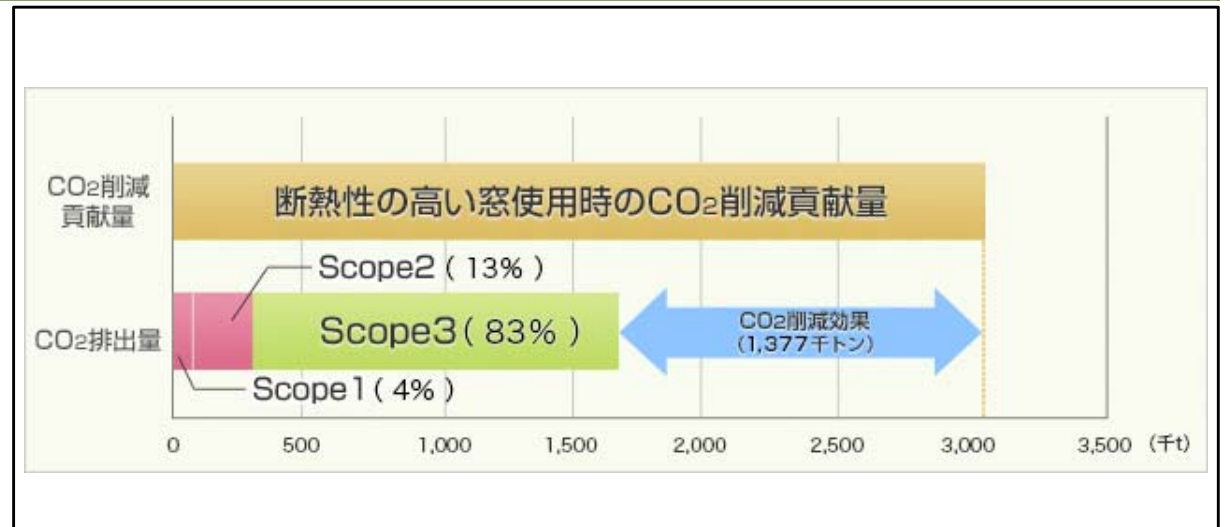


図2: CO<sub>2</sub>排出量と高断熱性窓によるCO<sub>2</sub>削減貢献量

【算出条件】

住宅断熱仕様 H11省エネルギー基準適合レベル

●住宅モデル 「住宅事業建築主の判断の基準におけるエネルギー消費量計算方法の解説」の計算モデルに準拠 2階建て、延床面積: 120.08㎡、開口比率: 26.8%(4~8地域)

●計算地域 改正省エネルギー基準(H25年基準)6地域

【算出条件】

(日本LCA学会「温室効果ガス排出削減貢献量ガイドライン」に準拠)

断熱性の高い窓による、住宅の空調エネルギー削減効果(CO<sub>2</sub>削減効果)を「削減貢献量」として算出

●比較対象: 1990年当時の窓(アルミ製)と現在の窓(樹脂製)

●使用期間: 30年間(製品寿命)

●算出方法: 窓1セット当たり削減貢献量 × 2017年度出荷セット数

## 3

## Y K K A P 株式会社

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2017年4月～2018年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入した原材料・資材の重量	● 原単位データベース（※1 ※2）
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー（電気・燃料）使用量	● 原単位データベース（※1 ※2）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 省エネ法特定荷主輸送トンキロ	● 算定・報告・公表制度排出係数（※3）
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別処理量	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額（出張）	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額（通勤）	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 賃借しているリース資産の操業に伴う排出はスコープ1、2に含めたため、カテゴリ8では計上していない	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● シナリオ設定による輸送トンキロ	● 算定・報告・公表制度排出係数（※3）
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 出荷重量	● 自社加工工程における重量あたり原単位
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 窓・ドア自体からの直接排出はないため、計上していない	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 出荷重量	● 原単位データベース（※2）
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 他社に賃貸していないため、計上していない	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● フランチャイズ主宰者でないため、計上していない	
カテゴリ15「投資」	● 投資事業者、金融サービス提供事業者ではないため、計上していない	
「その他」	● 上記以外で算定している排出項目はない	

※1「カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム 基本データベースver.1.01(国内データ)」

※2「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer2.5」

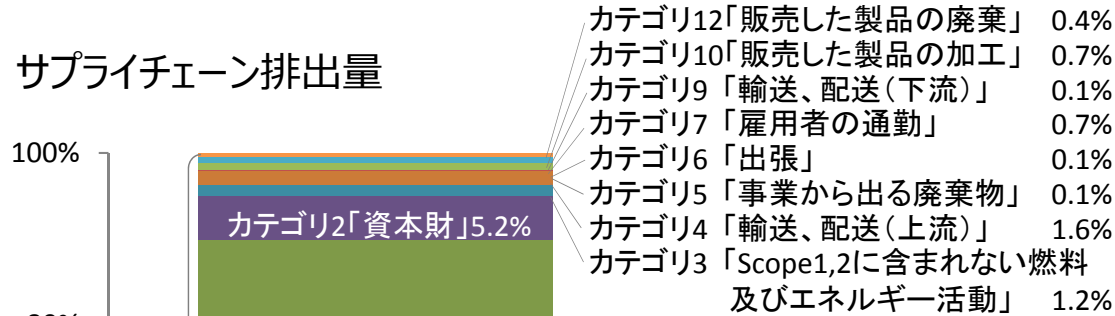
※3「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」(<http://ghg-santeikohyo.env.go.jp/>)

# 4

# YKK AP 株式会社

## サプライチェーン排出量算定結果

### ● サプライチェーン排出量



2017年度排出内訳  
(YKK AP国内)

